

歴史、伝統、技術と創造で
創立時の未来であった今日、
そして、これからの未来のために、
農学をもっと耕し続ける。

東京農業大学に、
農学部 農学科あり。
＜1891年創立／134年間持続中＞

農 東京農業大学

先人の志と技術 × イノベーションで 切り拓く栽培技術の未来

創立の理念

農学科は東京農業大学の一丁目一番地とよく言われます。農学科の理念、それは東京農業大学の設立の理念そのものです。初代学長である横井時敬先生の「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」や「農学栄えて農業亡ぶ」といった言葉は、観念論を排して**実際から学ぶ姿勢を重視**し、学問のための学問を排した実学主義の表れです。『作物生産学』などの座学に加え、1・2年次の『農業実習』や2年次の『生物学実験』、3年次の専門分野ごとの『作物学実験』『園芸学演習』、4年次の必修科目である『卒業論文』といった必修科目を通して、創立理念を受け継ぎつつ時代に応じた発展を図っています。



卒業生の進路

卒業生は、農業およびその関連産業はもちろん、農学科で培った魂で、多種多様な分野において **Entrepreneur**、**Generalist**、**Specialist** として活躍しています。



農学科2023年度卒業
北海道庁
上川農業改良普及センター
牧川雪乃さん

公務員等：農林水産省、国土交通省、防衛省、警察庁、北海道庁、東京都庁、横浜市、（国研）農業・食品産業技術総合研究機構、（独）農林水産消費安全技術センター、全国農業組合連合会、日本政策金融公庫、都道府県私立中高校教員（農業、理科）など

農業および関連企業等：サカタのタネ、タキイ種苗、カネコ種苗、ホクト、片倉コープアグリ、ヤンマー、日本農薬、北興化学工業、渡辺パイプ、大田花き、東京シティ青果、日比谷花壇、日本農業新聞など

食品関連企業等：アサヒ飲料、味の素、キューピー、明治、敷島製パン、山崎製パン、日清製粉ウェルナ、わらべや日洋ホールディングスなど



東京農業大学 農学部 農学科

こんな人に オススメ

- ✓ 植物の不思議を探究したい。
- ✓ 生産現場でのリアルな課題を知り、解決力を養いたい。
- ✓ 圃場や温室、実験室でも植物を栽培して学修したい。
- ✓ 生産者への貢献とともに消費者の豊かな食卓を創造したい。
- ✓ 農業を通して地域創生、復興に貢献したい。
- ✓ 毎年2万人が来場する収穫祭で活躍したい。

学びの特色 ～圧倒的農力～

- 厚木キャンパス内に複数の圃場や温室などの栽培施設があり、本来の農学科らしい卒業論文に取り組みます。
- 約6haの伊勢原農場では、水田はもちろん、温室などの栽培施設や果樹園などを活用した農業実習などで実践的な学びができます。
- 学科1学年の定員が170名（定員）で4学年の合計が700名程度、教員が21名（定員）と農学に興味関心を共感できる多くの仲間とともに学べます。
- 農学科の教員のうち女性教員が6名、外国人教員が1名と教員も多彩です。
- 農学科には6つの研究室があり、農学の主要分野を網羅しているとともに、各研究室にはそれを専門として研究する教員が3名いることで専門性がとても高いです。農学系専門家集団である学内との連携だけで幅も広がります。
- 農業系の部活、サークル、統一本部（収穫祭団体）が充実しています。
- 海外32の国・地域の農学系44大学が協定校、これらへの留学で国際的な視点で農学を学ぶこともできます。

学科カリキュラム (2026年度新入生カリキュラム)

■必修科目 ■選択科目 ★配属された研究室で決定

1年次	2年次	3年次	4年次
<ul style="list-style-type: none"> ・作物生産学 ・土壌学 ・園芸学(一)(二) ・植物遺伝学 ・植物病理学 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物育種学(一) ・昆虫学 ・生物学実験 ・農業実習(三) ・食用作物学(一)(二) ・植物病原微生物学(一) ・果樹園芸学 ・野菜園芸学 ・花卉園芸学 ・園芸環境植物学 ・工芸・飼料作物学 ・植物育種学(二) 	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹栽培論 ・野菜栽培論 ・花卉栽培論 ・ポストハーベスト論 ・農業気象学 ・植物栄養学 ・植物生理生態学 ・農業経営学 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文 ★作物学演習(三)(四) ★植物育種学演習(三)(四) ★植物病理学演習(三)(四) ★園芸学演習(三)(四) ★ポストハーベスト学演習(三)(四) ★農業環境学演習(三)(四)
		<ul style="list-style-type: none"> ★作物学実験(一)(二) ★植物育種学実験(一)(二) ★植物病理学実験(一)(二) ★園芸学実験(一)(二) ★ポストハーベスト学実験(一)(二) ★農業環境学実験(一)(二) ★作物学演習(一)(二) ★植物育種学演習(一)(二) ★植物病理学演習(一)(二) ★園芸学演習(一)(二) ★ポストハーベスト学演習(一)(二) ★農業環境学演習(一)(二) 	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草学 ・植物病原微生物学(二) ・生命科学 ・自然再生技術論 ・実験計画法 ・植物生長調節論 ・分子生物学 ・農産物マーケティング論 ・植物防疫論

1年次

2年次

3年次

4年次

農学の基礎を広く学び、3年次以降に卒業論文で取り組む専門分野の選択に繋げる

研究室に配属され、収穫祭で主体的な役割を担う

卒業論文の作成に向けて実験の日々

東京農大の農学科って どんなところ？ ～教員編～



農学科の学び

農学科長／伊勢原農場長／大学院 農学専攻主任
農学科 園芸学研究室 教授 藤澤弘幸

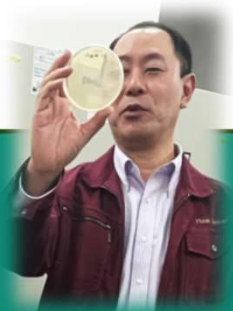
大学の研究は新しい知識や技術を生み出すのが使命ですが、農学科の各研究室では、研究成果が農業に役立つことを強く意識して研究を進めています。例えば、大粒で収穫時期の早いラズベリー品種「アーリールビー」の開発や、トマトに発生する青枯れ病の対策として病気に強いペピーノを台木に利用する方法の開発などは、農業にたずさわる方がすぐにでも活用できそうな成果です。

このような実社会で役立つ研究を行うためには課題設定がとても大事ですが、そのためには農業の実際を知らなければ適切な課題が見つけれられません。そこで、農学科のカリキュラムでは「農業実習」や「○○栽培論」といった、それを習えば農業ができそうな科目が置かれています。また、伊勢原農場には水稻、畑作物、野菜、果樹、花など多様な農業現場があります。しかし、これらの学びは自分で農業ができるようになるためという以上に、農業の実際を理解し研究する意義のある課題を探り当てるための投資と言えます。

農産物の生産や保存に役に立つのにまだだれも知らない知識や技術を自らの手で作り出すこと、それが農学科での学びの目的です。

課外活動で人間力を養う

厚木キャンパス学生部長
農学科 植物病理学研究室 教授 篠原弘亮



卒業後に社会で活躍するために必要な人間力を養うために、農学部の特徴が溢れる部活（園芸グリーン栽培部や厚木ミツバチ研究部など）やサークル（厚木植物研究会や農家愛好会など）、来場者数が毎年2万人近くにも達する“収穫祭”での活動など課外活動が大きな役割を果たしています。

収穫祭で大活躍する農学科統一本部（本学を象徴する学生と教員とが協働して収穫祭のために活動する学生団体）の学生さんは、まさに収穫祭の中心的な役割を果たし農学部全体を盛り上げてくれています。農学科のすべての研究室は収穫祭の文化学術展に出展、学長賞などを数多く受賞しています。さらに、世田谷キャンパスで開催、19学科が出場する“体育祭”でも農学科統一本部は大活躍しています。令和7年度体育祭は“優勝”（令和6年度は準優勝）するなど常勝軍団です。農学部の学生さんの収穫祭や体育祭での頑張り、姿勢を観ると“感動”が本当に込み上げてきます。

農大生として人々に笑顔と感動を与える体験、これは必ず『人生の糧になる！』これまでに圧倒的な数の卒業生を輩出、彼らの活躍を知る我々は輝く農大生の未来を確信しています。



全学応援団 団長 坂入さん
農学科 園芸学研究室

農家の出身ではないのですが、将来農業に関わる仕事に就きたいと思い、農場があって五感で農業に触れることができそうな農学科を選びました。入学してすぐに「青山ほとり」（大根踊り）の練習会があり、そこで出会った応援団の先輩方がすごくかっこ良くて、応援団リーダー部に入りました。

応援団は、野球部、相撲部、陸上部、ボクシング部など農大の運動部が試合に出場するときは会場へ行って応援します。その他に、地域のお祭りなどのイベントに招かれて一般の方に応援の様子を披露することもあります。リーダー部員は応援の際、前に立って全体を指揮しますので、たとえ試合で劣勢の局面でも挽回を信じる強い気持ちがないと、選手を力づけることができません。応援には何通りかの型がありますが、どんなときでも一糸乱れぬ指揮で応援をリードするためには普段の練習が欠かせません。キツイ練習を繰り返しても応援そのものは形に残るわけではないので、モチベーションを保つのが難しい時もありますが、先日の箱根駅伝予選会では「応援から力をもらいました」との選手の声にやりがいを実感しました。イベントなどで感激して声をかけていただくのも嬉しいことです。

農学科の自分を含め、今年の応援団リーダー部は4年生の4人全員が厚木キャンパスの学科所属です。練習で世田谷キャンパスへ行くことも多いので、厚木での授業とのメリハリを意識しています。卒業まであと数ヶ月ですが、これから大きな大会や学内行事が続きますので、力の限り応援したいと思っています。



全学応援団 チアリーダー部 部長 松本さん
農学科 ポストハーベスト学研究室

私は環境や農業に興味があり、農学科に入学しました。課外活動は高校まで陸上をずっと続けていましたが、大学は新しいことに挑戦したいと思い、思い切って全学応援団チアリーダー部に入部しました。

チアリーダー部は、リーダー部と吹奏楽部と農友会各部の応援活動や地域のイベントへの参加に加え、応援の技術向上を目的とし競技者としてチアリーディングの大会に出場しています。

私自身チアリーディングは未経験で、体も硬く最初は不安ばかりでしたが、他の未経験から始めた部員が色んな技を成功させていく姿を見て刺激をもらい、自分も練習に参加するごとに新しい成功体験が増え、どんどんチアが楽しくなっていました。

応援活動では野球部や陸上部、アメフト部など10以上の部活の活躍を近くで応援する環境で、応援を通して今までルールを知らなかったスポーツにも詳しくなりました。自分たちの応援が選手に届き、後押しになって勝利を掴めた時はとても嬉しいです！

また、チアリーディングの競技は国内の大会に何度か出ました。1年生と3年生の時には世界大会への推薦をいただき、本場アメリカで演技を行い、優勝、準優勝をいただくという忘れられない貴重な経験をしました！

4年間チアに打ち込む経験は、色々な面で成長することができ、思い切って入部して良かったなと思っています！

～卒業生編～

緒方拓夫氏 株式会社オリエンタルランド 農学科1997年度卒業



高校時代から生物と体験的な学びが好きだった私は、「実学主義」の農大で北海道から沖縄まで幅広い実習に参加し、農学・林学・畜産など多様な現場を体験しました。植物病理学研究室でミクロの世界を学び、演劇研究部では多くの仲間にも恵まれ、学生生活全体が自分を大きく成長させてくれました。

現在の仕事では、学業や演劇で培った観察力・継続力・探求心が植物の生態や気持ちを理解し育てることへ役立っています。テーマパークを花や植物で彩り、ゲストが笑顔で過ごせる空間演出の一助となれることへ大きなやりがいも感じています。

将来への不安を抱く高校生も多いと思いますが、大学で好きなことや自分に合う学びを深め、新たな仲間と出会える時間は何より貴重です。私にとってはそれが農大でした。皆さまの未来を心より応援しています。

鈴木太郎氏 株式会社サザコーヒー 代表取締役社長 農学科1998年度卒業



私の青春は農学科で果樹を学んだことから始まりました。その後家業のコーヒー屋を継ぎましたが「自分でもコーヒーを育てたい」という夢があり、即思い切って南米コロンビアに行き、小さな農園を持つことに。現地では品質管理を学び、2017年には農園の豆が品評会で優勝。自分で育てたコーヒーが自分の店でお客様に美味しいと飲んでいただけなのが幸せです。農学の本質「実学主義」が自分の夢と家業の両方を後押ししてくれました。

吉田モモさん 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 大学院農学研究科農学専攻2022年度修了



私は、学生時代を通して農学について幅広く学ぶだけでなく、生産者の方のお手伝いに行く経験もしました。その中で、現場の課題と研究を行う目的を実体験として知ることができたのは、貴重な経験だったと感じます。現在は、「夏秋イチゴ」の育種に携わっています。イチゴは夏にもケーキ用などに一定の需要があり、国内の一部寒冷地・高冷地で栽培されていますが、近年の猛暑により安定した生産が困難になってきています。そこで、私たちは猛暑の夏でも大粒で果皮が傷みにくい品種の開発を目指しています。「次の品種はいつできそうですか！」と声をたくさんかけていただけるので、もっといい品種を作らなくてはと強く感じます。農学科ではたくさんの「やりたい!」「おもしろい!」と出会えました。自分たちで考えてトライ＆エラーを繰り返したこと、たくさん現場を知れたこと、農学科で学び・経験したことが、今のわたしの研究活動を支えてくれています。

東京農業大学農学部農学科（1891年創立）概要

学部・学科名称	農学部 農学科
設置研究室	作物学研究室、園芸学研究室、植物育種学研究室 植物病理学研究室、農業環境学研究室、 ポストハーベスト学研究室
教員数	21名
キャンパス場所	厚木キャンパス（神奈川県厚木市）
入学定員	170名（1学年）
収容定員	680名
学費 [2026年度予定]	入学金 270,000円 授業料等 1,253,800円 初年度合計 1,523,800 2年次 1,286,800円 3年次 1,336,800円 4年次 1,386,800円 4年間合計 5,534,200円

類似する学部・学科との違い

◆学びの特色を理解した第一志望の入学者が多い
◆志を同じとする研究室の大勢の仲間と学ぶ
◆学ぶための負担を軽くする寄り添った学費

東京農業大学大学院農学研究科農学専攻概要 ～学部での学び、その先へ～

農学に求められる役割は複雑化、多様化しています。そのため本専攻では、環境に負担の少ない作物生産、植物の遺伝的多様性の解明やそれらを活用した育種、病原体の特性解明と微生物や病害に強い植物を活用した病害防除、高品質かつ機能性に富む果樹・野菜・花の生産、栽培環境と植物生理反応の解明、収穫後の農産物鮮度保持技術などの研究に取り組み、安定した食料生産の実現と農の持つ新たな価値の創出を目指しています。

大学院カリキュラム

博士前期課程

農学研究科共通科目 知的財産管理法／インターンシップ

論文英語／研究倫理／プレゼンテーション法／植物生理生態学／

草地学特論／水圏生物学／分子遺伝学／作物生産学特論Ⅰ／作物生産学特論Ⅱ／

植物保護学特論Ⅰ／植物保護学特論Ⅱ／園芸生産学特論Ⅰ／園芸生産学特論Ⅱ／

植物機能・利用学特論Ⅰ／植物機能・利用学特論Ⅱ／農学特別演習Ⅰ／農学特別演習Ⅱ／

農学特別演習Ⅲ／農学特別演習Ⅳ／農学特別実験Ⅰ／農学特別実験Ⅱ／

農学特別実験Ⅲ／農学特別実験Ⅳ

博士後期課程

農学研究科共通科目 知的財産管理法・研究倫理特論／インターンシップ

英語論文作成法／作物生産学後期特論／植物保護学後期特論／園芸生産学後期特論／

園芸機能開発学後期特論／特別研究指導Ⅰ／特別研究指導Ⅱ／特別研究指導Ⅲ

収穫祭



東京農業大学の学園祭である**“収穫祭”**は、厚木キャンパスだけでも約2万人の来場者を誇る学生と教職員とが一体となって、地域の方々とともに盛り上がる学内最大のイベントです。**農学科は特に学生と教員とが一丸となって全力で取り組みます。**正直、このような大学、学科は他にはないとの自負があります。これが**農学科は学生と教員との距離が近く**、大家族的なイメージを持たれる所以かもしれません！